

授業改善プラン

地域名	東上総教育事務所	学校名	長南町立長南中学校
-----	----------	-----	-----------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 全国・県平均とほぼ同じだが、観点別に見ると「読むこと」「書くこと」がやや下回っている。（R4）
全国・県平均をやや上回り、観点別では「読むこと」「書くこと」はほぼ同じであった。（R5）
- 短答式や選択式の正答率は全国平均に比べて高いが、記述式問題の無解答が極端に多い。（R4）
記述式問題の無解答率はR4と比較し、大幅に減少した。全ての項目で全国・県を上回った。（R5）
- 質問紙から「自分の考えを書いたり、発表したりする活動」が不足していたことがわかった。（R4）
R4の質問紙と比較し、数値は高くなったが「自分の考えを書く活動」に課題が見られた。（R5）

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 「書く力」を身に付けるためには、「自分の考えをもつこと」、「何を問われ、何を書くべきかを生徒自身が理解すること」が必要である。そこで、各教科において、「根拠を明確にして自分の考えを説明したり、書いたりする活動」を積極的に取り入れる。
- 『『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』を活用し、単元計画に4つの学習過程を位置付けることで、主体的な学びにつなげる。
- 生徒の思考力や表現力を高めるために、ICT機器を活用する。
- 少人数指導を実施し、生徒一人一人が「自分の考えを意識した学び」が行えるよう、個の学びに対する支援を行う。
- 「振り返りシート」を活用し、次時の学習課題を明確にさせる。また、繰り返し自分の言葉で書くことによって、学習内容の定着を図る。
- 学びの過程にフィードバックを取り入れる。生徒と評価基準を共有し、適切に評価をすることで、学びを調整する力を育む。
- ルーブリック評価を取り入れ、基本的な知識を生かし、より発展的な学びをする力を育む。

3. 具体的な実践

- 中学校1年生 「星の花が降るころに」～続編を書こう～（R5）
 - ・ 続編の条件として、「登場人物を変えない」「場面を一つ設定する」「比喻表現を使う」ことを約束事とし、これらを分析する際の着目点と位置付けた。
 - ・ 効果的な「比喻表現」を使うにあたり、「デジタル教科書」を活用し、比喻表現を見つける活動を行った。
 - ・ 「物語の構想を立てる」際には、教師モデルを作り、授業支援ソフトを活用して生徒に提示した。
 - ・ 「書く活動」では、生徒自身が「1人1台端末に入力」か「手書き」かの選択をし、各自にとって最適な学習方法を選べるようにした。

- 中学校1年生 「星の花が降るころに」～作者へのファンレターを書こう～（R 6）
 - ・「ファンレター」の条件として、登場人物、場面展開、比喻表現に着目して物語を読んで分析した。
 - ・教科書の中の比喻表現の効果を考え、授業支援ソフトで登場人物の心情曲線の交流やファンレターの教師モデルを提示し参考にさせた。
 - ・個別最適な学びに向け、「1人1台端末に入力」か「手書き」かの選択をし、ファンレターの構想を立てた。
 - ・個に応じた課題を用意し、生徒の実態に応じた学習を目指した。

- 中学校2年生 「根拠の適切さを考えて意見文を書こう」（R 5）
 - ・説得力のある意見文を書くために、何に困っているのかマッピングを活用し思考を広げた。
 - ・説得力のある意見文にするために、インターネットを活用して根拠となる素材を集めた。
 - ・明確な根拠となるよう、観点を多角的に捉えた教師モデルを提示し、分析させた。
 - ・「構成メモ」を作る際には授業支援ソフトを活用し、書くべき順番について検討させた。

- 中学校2年生 「根拠の適切さを考えて意見文を書こう」（R 6）
 - ・4月に報道された「人口戦略会議」の「消滅可能性自治体」のニュース記事を取り上げ、「2050年に長南町が消滅しないようにするためにはどうするべきか」をテーマとして意見文を書く活動を行った。
 - ・「意見と根拠」、「根拠と意見をつなぐ考え」を意見文に入れることを条件として教師モデルを提示した。
 - ・「根拠」を複数入れること、「反論と反論に対する意見」を書くことを条件とした。
 - ・授業支援ソフトで他の人の構成メモを読み、反論カードを付け加える活動を行った。

- 中学校3年生 「多角的に分析して書こう」（R 5）
 - ・「茂原七夕まつり」の複数の広告を題材とし、デザインの違いや作者の意図などの観点を立てて、分析を行った。
 - ・グループごとに付箋を活用し、それぞれの広告について意見交換（批評）を行った。
 - ・構成表を元に批評文を書き、観点に基づいて推敲をし、清書を書き上げた。

- 中学校3年生 「多角的に分析して書こう」（R 6）
 - ・過去3年間分の広報を1人1台端末で見られるように設定し、朝読書の時間を活用して読んだ。
 - ・単元の始めに「ループリック表」を生徒に提示したことで、生徒一人一人が目標をもって取り組んだ。
 - ・教師モデルがいつでも見られるように、1人1台端末に設定し参考にさせた。
 - ・「400字程度で批評文を書きあげること」とし、手書きか1人1台端末に入力かを個々に選ばせた。
 - ・フィードバック過程を学習の中に組み込み、第一次評価を受け、再提出させ、第二次評価を行った。

4. 成果

- 「実践モデルプログラム」の4つの学習過程を位置付けたことで、主体的に学習を進めることができた。
- 「振り返りシート」を活用し、学習のまとめや振り返りを自分の言葉で書いて蓄積することで、生徒自身が学習で分かったことや課題の分析ができ、学習内容の定着につながった。
- I C T機器の活用により、生徒同士の考えの共有が容易となり、話し合い活動が充実した。自分の考えを明確化する学びを進められたため、生徒は意欲的に学習に取り組むことができた。とりわけ、「書くこと」を苦手とする生徒にとっては、学びやすい環境となった。
- 教師モデルを提示して分析することで、学習の見通しをもつことができた。
- どの教科でも「根拠を明確にして書くこと」を意図的に位置付け、全職員で共通理解し、課題を明らかにすることができた。
- 国語科では、書くことの目的を明確にし、言語活動を位置付け、主体的に表現する実践ができた。
- 学びの過程でフィードバック評価を取り入れたことにより、より良い評価を得ようと、自主的に周囲と意見交換する姿が見られた。
- ルーブリック評価を取り入れたことにより、生徒たちから「より上の評価を目指したい」という肯定的な意見や、学びの調整を図る生徒が多く見られた。

◆担当指導主事から

○全国学力・学習状況調査の問題の分析と結果の分析をもとに、生徒の実態を捉えて、教科等横断的な視点をもって学校組織全体で「根拠を明確にして書くこと」の研究に取り組んだ。国語科における具体的な授業改善では、書く力の向上の手立てとして、ルーブリック評価を取り入れ、生徒が自ら学習の調整をしながら作品を仕上げられるようにした。また、I C T機器を活用し、教師や生徒同士でのフィードバックを効果的に行うことで、より主体性をもった書く活動につながった。